

しなののうた

稜線を茜に染めて初日の出拝める朝(あした) 肅々過ごす



杉田小百合

しなののうた

初詣人波埋める境内に知る人ありて歳を言祝ぐ

杉田小百合



しなののうた

元日の天を裂くごと木遣歌きりりと鉢巻き厳かなれる



杉田小百合

しなののうた

「今日は」と挨拶をするロボットの手の冷たさに情け伝わらず

杉田小百合



しなののうた

とロボット進化の世にありて昭和の我は戸惑うばかり



杉田小百合